

## 1.1 情報と人間

### (1) 情報とは

人間は、人類発祥当時から、身の回りのものを見たり、聞いたり、触ったり、匂いを嗅いだり、場合によっては口に入れたりして、目の前の物や身の回りの状況を認識し、判断し、行動してきました。

空腹のとき、目の前の物を食べることができるかが重要な情報だったでしょう。狩猟時代、動物の足跡は獲物がいるような場所を知るための手がかりだったことでしょう。物々交換したい人々にとっては、誰がどこに何を持っているかが重要な関心事だったのでしょう。農業時代の人々にとって、季節変化や天候は、種を播いたり収穫する時期を判断する重要な情報だったに違いありません。



「情報＝情けを報せる」という言葉は、「役に立つ事実や報せ」を意味する英語の「Information」を訳した明治時代の造語ですが、実に卓越した妙案とも言える造語です。

当然のことながら「役に立つ事実や報せ」は、人によって異なります。戦国時代の武士たちにとって、敵国の武力や武将の動きは重要な情報だったことでしょう。競合企業にとって、競合する他社の新製品や価格は重要な情報でしょう。投資家にとって、株価や為替の動きは重要な情報ですが、投資に興味のない人にとっては、単調な数字列に過ぎません。

## (2)情報の定義

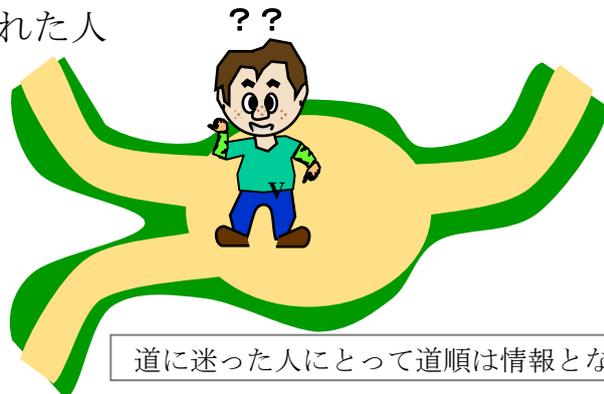
水島賢太郎は情報を以下のように定義しています。

「どちらか一方のモノが『送り手』になり，他方の『受け手』のモノに**変化を与える**とき，その変化を生み出している**要因**を『情報』と呼ぶ」水島健太郎「情報の表現と伝達」共立出版(2000)

この定義では，情報の授受によって受け手に何らかの変化が生じることが期待されています。すなわち，なんらかの事実や報せが何の変化ももたらさない場合，それはもはや「情報」ではありません。

定義に示されている「送り手」，「受け手」，「情報」の例を挙げてみましょう。まず1つ目の例。道に迷った人にとって，「道順」は目的の場所にたどり着くための重要な「情報」です。この場合，次のように考えることができます。

- 【送り手】道順を教えてくれた人
- 【受け手】道に迷った人
- 【情報】道順



2つ目の例。書店に立ち寄った人が，書籍の棚位置を検索システムで探しているものとしましょう。このとき，送り手は，人間ではなく「検索システム」となります。すなわち，受け手や送り手は必ずしも人ではなく，システムや書籍，文献等となる場合もあります。

- 【送り手】検索システム
- 【受け手】本を探している人
- 【情報】本がある書棚



送り手や受け手は  
必ずしも人とは限らない